

## 世界文化遺産の登録をめざして

自然環境の保全が重要課題となっている現代社会において、環境を大きく改変することなく、自然と共生しながら1万年以上続いた縄文文化には、私たちが学ぶべき多くの価値と貴重な示唆が含まれています。

そのため、北海道と青森県、岩手県、秋田県は、北海道南部と東北部の縄文遺跡群について、ユネスコの世界文化遺産の登録をめざして共同で取り組んでいます。この地域では、本格的な定住の始まりから縄文文化の終わりまで大規模な集落が形成され、環状列石などの記念物もつくられました。また津軽海峡があるにもかかわらず交流を続け、共通の地域文化圏を長期にわたって維持していたという特徴があるなど、世界の先史狩猟採集民の残した遺跡群のなかでも異彩を放つ縄文文化の価値を代表しています。



### 北海道の構成資産

- 垣ノ島遺跡(函館市)**  
 約8,000~3,000年前の集落跡。4,500年ほど前には土器や石器など道具の廃棄や儀礼を行った長さ160mを超える「コ」の字形の盛土遺構がある。
- 大船遺跡(函館市)**  
 約5,000~4,500年前の集落跡。深さ2mを超える竪穴住居跡など大型住居群が密集し、クジラやオットセイなど当時の食料となった海産資源が出土している。
- 入江・高砂貝塚[入江](洞爺湖町)**  
 約5,500~4,000年前の貝塚を伴う集落跡。子どもの頃ポリオに罹った成人男性の遺体が発見されており、成長するまで長期間の介護を受けていたことが分かる。
- 入江・高砂貝塚[高砂](洞爺湖町)**  
 約4,200~2,500年前の貝塚を伴う集落跡。内湾近くの段丘に立地し、当時の環境や生業活動の実態を示している。
- 北黄金貝塚(伊達市)**  
 約6,000~5,500年前の貝塚を伴い4,500年前頃まで続いた集落跡。漁労を中心とした生業の実態を示すとともに、当時の精神性を反映した石器の廃棄儀礼を行った水場遺構もある。
- キウス周堤墓群(千歳市)**  
 約3,300年前の巨大な周堤をもつ集団墓地群。周堤は円形の竪穴を掘った土を盛上げたもので外径は最大で75m。竪穴部に複数の墓がある。
- 鷺ノ木遺跡(森町)\*関連資産**  
 約4,000年前の祭祀・埋葬遺跡。外径37mと北海道で最大級の環状列石が高速道路の建設中に発見され、道路のこの部分をトンネルとしてこの記念物を保存した。構成資産には含まれないが、関連資産としている。

## 北海道・北東北の縄文遺跡群の構成資産



垣ノ島遺跡



大船遺跡



入江・高砂貝塚[入江]



入江・高砂貝塚[高砂]



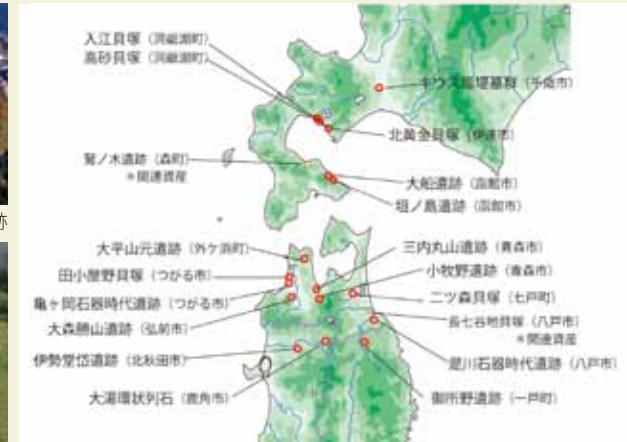
北黄金貝塚



キウス周堤墓群



鷺ノ木遺跡



資料提供: 恵庭市教育委員会、帯広市教育委員会、伊達市教育委員会、千歳市教育委員会、洞爺湖町教育委員会、函館市教育委員会、森町教育委員会、八雲町教育委員会、湧別町教育委員会、羅臼町教育委員会、礼文町教育委員会、(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構、北海道立埋蔵文化財センター、Александр Василевский